運河を守り、運河を描いたデザイナー・**藤森茂男**ゆかりの街

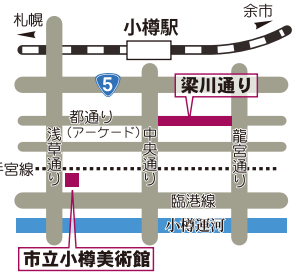
梁川通りへようこそ。

やながわどおり

どこか昭和の香りが漂う、ノスタルジックな商店街。藤森茂男の店〈運河画廊〉をはじめ、個性豊かな30あまりの店が並んでいます。市立小樽美術館からは徒歩およそ7分。絵画鑑賞と併せ、街並みの散策をどうぞお楽しみください。

◆梁川（やながわ）通りとは——その名は榎本武揚の雅号から

小樽駅近くの中央通りから分岐して北側に延びる商店街。その名は明治時代初頭よりこの一帯の土地を所有した、榎本武揚（当時は開拓使の官僚）の雅号〈梁川〉（りょうせん）を訓読みして付けられました。今から100年以上も昔、明治後期に発行された地図にも記されている、歴史ある通りの名称です。古くから多数の商店が軒を連ね、映画館、旅館なども加わって、小樽市内でも屈指の繁華街として賑わいをみせてきました。



◆市立小樽美術館から梁川通りまでは徒歩およそ7分。詳しくはウラ面の地図をご覧ください

さまざまな商店、飲食店のほか市場、銭湯も並ぶ梁川商店街。通り沿いにはスズランをイメージした古風なデザインの街路灯が並びます

▲昭和末期の梁川通り。商店街で行われたイベントでのひとこま。

▲大正後期〜昭和初期に発行された絵ハガキに梁川通りの賑わいを写した写真が使われています

藤森茂男と〈運河画廊〉

藤森茂男（1936〜1987）は兄とともに小樽市内で企画制作会社を経営し、看板や包装紙のデザイン、店舗設計など幅広く手掛ける商業デザイナーでした。

その頃、昭和40年代に入った小樽では、小樽運河を埋め立てて新たな自動車道路を建設する計画が具体化します。これに対し、歴史的遺構である運河を守ろうとの動きが市民のあいだに起こります。昭和48年には〈小樽運河を守る会〉が発足、その初代事務局長に就いたのが藤森でした。以後、運河保存運動に傾倒し、時に本業以上の情熱と労力とを、その活動に注いでいきます。

仕事のかたわら趣味として絵を描くことを楽しんでいた藤森は、運河の風景画も多数描いていました。保存運動が最終局面を迎えた昭和50年代後半頃には運河の姿を作品として遺すべく、とりわけ精力的に創作に打ち込みます。40歳代で体調を壊していた藤森は、右半身の動きが不自由になると絵筆を手に縛り付けて描くこともありました。

そうした文字どおり渾身の創作活動によって生まれた作品群を展示するため、昭和61年3月に開いたのが、梁川通りの小さな画廊です。ここで藤森は、自ら描いたたくさんの絵に囲まれて、ゆったりとした時間を過ごしていました。

しかしそんな日々も長くは続きません。翌年1月、藤森は51歳の誕生日を前にして急逝します。画廊のオープンからわずか8ヶ月後のことでした。

時間／10:00〜18:00　休／不定
☎0134-23-5233（090-3777-7980）

※上記時間内でも不在にすることがありますので、来店前にご確認願います。

梁川商店街 公式ガイドブックができました　無料で配布中

商店街に並ぶ店の詳しい案内のほか、街の歴史についても昔の写真・地図を用いてじっくりと解説。梁川通り周辺の散歩コースなども紹介し、読み応えたっぷりの内容です。梁川通り商店街各店ほかで無料配布しています。

藤森茂男ゆかりの街である梁川商店街では、市立小樽美術館特別展『小樽運河・いまむかし展』に合わせて関連イベントを行います。詳しくはウラ面をご覧ください。